

繁殖和牛経営における畜産クラスター事業を 活用した生産性向上の取組

丹後家畜保健衛生所
○福田奈穂 西井義博

【はじめに】平成3年に開場した繁殖雌牛70頭のA農場は、飼養管理に係る様々な課題があったが、昨年度親会社と合併し、同時に畜産クラスター事業による生産基盤を強化、関係機関の技術支援による生産性向上対策に取組み、一定成果を認めたので概要を報告する。

【取組内容】所内及び関係機関による検討会を各4回開催し、課題の洗い出しと対策を検討、優秀な子牛の安定生産を目的に、①飼育管理内容の確認②牛群栄養状態調査（飼料給与量調査、代謝プロファイルテスト、子牛の体重体型測定）③飼養衛生環境改善（牛舎消毒、群編成変更、育成舎の増築）④子牛生産頭数の確保（繁殖検診の強化、分娩・発情監視機器の導入）に取組んだ。

【結果】①従業員2名体制となり牛群監視が行き届き、作業効率が飛躍的に向上。②③母牛・子牛ともにタンパク給与量不足が確認され給与内容を変更するとともに、飼養密度の低下等飼養衛生環境改善により、子牛の慢性疾病（真菌症や下痢・肺炎）の診療件数が減少、発育が大幅に改善し、子牛せり市での評価も良好。④母牛は分娩後の早期繁殖検診と発情発見機器により発情の見逃しが減り、受胎率は57%から89%に向上。

【今後の対応】関係機関一体となり、繁殖100頭規模に向け、放牧の活用等により効率的な飼養衛生管理を実現し、府域全体の和牛増頭につなげていく。